

クアラルンプール日本人学校における 在外教育施設の実態と学年学校運営

前在マレーシア日本国大使館附属・クアラルンプール日本人会日本人学校 教諭
千葉県千葉市立稲浜小学校 教諭 清宮正義

キーワード：在外教育施設、クアラルンプール、学校経営

1. はじめに

クアラルンプール（Kuala Lumpur：以下KL）に派遣となり、日本とは異なる環境や教育事情に戸惑いながらも、課題や修正点を見出し、改善を図ることで「やりがい」を感じながら充実した3年間を勤めることができた。そのたくさんの学びの中から、一番印象に残っていることは「学校経営」の難しさであった。クアラルンプール日本人学校（Japanese School of Kuala Lumpur：以下JSKL）の特色とともに学校経営について紹介する。

2. マレーシアの概要

マレーシアはマレー半島の11州と連邦直轄のKLからなる西マレーシア、そして北部2州を含む東マレーシアから成り立っている。人口の約66%をマレー系、約26%を中国系、約8%をインド系で構成される。多民族国家であるマレーシアでは、多くの言語が存在するが、他民族とのコミュニケーションをとるために英語が多く用いられる。そのため、英語に関しては正確な発音や文法を重視するより、意思疎通を重要視するために相手の言語を積極的に理解しようとする国民気質を感じる。

3. JSKLの概要

JSKLは、1966年に小学部を開校し、中学部や幼稚部も相次ぎ開部し、本年度で50周年を迎える。経済成長と共に在籍数も増加し、1977年には1400名を超える大規模校となった。その後、アジアの経済拠点の変化と共に減少し、2015年は870名を超える在籍数となっている。学級数は各学年3～4学級であり、平均学級児童数は32名である。職員構成数も文部科学省派遣6割、財団派遣4割程度の構成が、この数年で両派遣共に5割程度になり、国内同様に中堅職員から若手職員への教育技術の伝承が喫緊の課題となっている。なおこの傾向はJSKLだけでなく、東南アジア諸国の在留教育施設大規模校の共通課題ともいえる。



クアラルンプール日本人学校

4. マレーシアの教育

(1) 学校教育 マレーシア国民の教育は、大きく4つの基本方針を掲げて実施されている。

①愛国心育成 ②宗教心育成 ③他民族と協調する心の育成 ④文化や伝統の尊重

(2) 小学校教育

小学校教育は6年間の就学となり日本と同様だが、以下の点は日本と異なっている。

- ① 公立学校は2部制（午前・午後）となっている。
- ② 学習する教科 ・マレー語・英語・算数・音楽・図画工作・理科・生活技術・宗教
- ③ 1単位時間は30分 ※表記時間は授業開始時間〔セランゴール州小学校時間割〕

	07:45～	08:15～	08:45～	09:15～	09:45～	10:15～ 10:35	10:35～	11:05～	11:35～	12:05～	12:35～
月	朝会	マレー	理科	宗教	道徳	休み時間 (マカン)	マレー	マレー	英語	英語	算数
火	マレー	英語	英語	算数	算数		マレー	マレー	宗教	道徳	
水	英語	体育	体育	音楽	音楽		算数	算数	マレー	マレー	
木	宗教	道徳	図工	図工	英語		マレー	マレー	算数	算数	
金	英語	英語	マレー	マレー	算数		理科	理科	体育		

④ 6年生で政府の統一テスト（UPSR）を必ず受検し、結果次第で上級学校が決定する。

5. 課題と改善

例年の学校評価に「朝の打ち合わせは不要である」や「度重なる変更により、十分な連絡が徹底されない」等の意見があった。3年目は小学部教務主任となり、まずは朝の打合せの改善を行った。右記のような日報を作成し、打合せ前までに配布した。紙面の内容は、当日と翌日の予定や関係ある情報を中心に記載した。また、赴任国についての歴史や情報を記載する等A4 1枚に集約し、連絡の周知徹底を図った。さらに、日本の教育情報を記載することで、日本同等の教育を行う意識づけにも繋がった。

6. おわりに

JSKLでの私の一番の財産は人とのつながりである。全国各地から集った教員が知恵を出し合い、より良い方向に築き上げていくことの大切さを感じた3年間であった。このような機会をいただいた千葉市教育委員会、文部科学省はじめ関係機関並びにJSKL 保護者に深く感謝している。

小学部職員連絡（8/28）

【本日】

日曜交流会（4年）東京体育館・MH・プール前広場 副教材は本日到着（予定）です。
保管先：MH小教材室

6次報告 児童朝会（8:15～8:30） 安全点検日 ※8月分未記入の方は、点検をお願いします。

【その他】

口説き回し 口説き回しは、連休明けの持ち物。時間割の確認をお願いします。

口説き回し 口説き回しは、3月に学習指導要領の一部改正が行われ、7月には指導要領の趣旨を説明した「解説」も出された。「考え、議論する道徳」をめぐり今年度の改訂について、教育ジャーナリストの渡辺啓司氏に、ベネッセ教育情報サイトが話を聞いた。

【本日の参観時間に関する学級連絡は、必ず学年主任の点検を受けて下さい。】

【本日の参観時間に関する学級連絡は、必ず学年主任の点検を受けて下さい。】

※特に、1.S・E.C・専科が時間割変更後は、遅延回避策を話し、間違いないようにして下さい。

【教育改革を先取り？ 新しい道徳は「考え、議論する」アクティブ・ラーニング】

小中学校の「道徳の時間」を「特別の教科 道徳」（道徳科）に格上げする準備が進んでいる。3月に学習指導要領の一部改正が行われ、7月には指導要領の趣旨を説明した「解説」も出された。「考え、議論する道徳」をめぐり今年度の改訂について、教育ジャーナリストの渡辺啓司氏に、ベネッセ教育情報サイトが話を聞いた。

小中学校は2018(平成30)年度から、中学校は19(第31)年度から、道徳科の授業が正式に始まります。これまでの道徳は、読み物教材の「登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導」（指導要領解説）にとどまるなどしており、実際は児童生徒の道徳性が育っていないのではないかとの指摘がありました。そこで今回の改訂では、問題解決学習や体験学習を取り入れながら、「考え、議論する道徳」への転換を図ることになりました。具体的には、「善悪の判断、自尊、自由と責任」の向上心、個性の尊重「公正、公平、社会正義」といったキーワードをもとに、**グループで話し合ったり、書く活動で考えをまとめたりなど**が中心となります。さらにはどの教科書にも、**生命の尊厳、社会参画、自然、伝統文化、情報化への対応等の質的な価値**といった**副教材**が取り上げられます。

学習指導要領の改訂や高大接続改革の議論では、「何を習得しているか」だけでなく「**習得していることを使ってどうにか社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかの資力・能力にまで引き上げること**を求めています。始業式から大卒までを通じて、「知識・技能」はもとより「思考力・判断力・表現力」も主体的に学習に取り組む態度」などを育成するとされており、そのために課題の発見・解決に向けて主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」を取り入れることにしています。「考え、議論する道徳科」への転換はこの流れに沿ったもの。「何を習得しているか」から「習得できようになるか」へとシフトする学校教育全体の転換といえるでしょう。

出典：「考え、議論する道徳」の授業と教科書はどうなる - 渡辺啓司 - ベネッセ教育情報サイト

【独立記念日(Hari Merdeka) マレーシア独立記念日とは？】

1957年8月31日に、マレーシアの前身であるマラヤ連邦がイギリスからの独立を勝ち取り、独立国家としての地位を確立した日。これにより過去300年に渡るポルトガル、オランダ、イギリス、日本による植民地支配から解放された。

サバ州、サラワク州が後で加わって、現在のマレーシアという国が成立したのは1963年9月。その事もあり、半島マレーシアでは非常に盛り上がる独立記念日も、東マレーシア(ボルネオ島)では落ち着いた。

大層目盛りの大盛り上げの独立記念日

毎年8月になると、「マレーシア独立の歌」を耳にする事が多くなる。またテレビでは「Merdeka! Merdeka! Merdeka!」(独立！独立！独立！)の大盛り上げで、「Merdeka Sale」(独立セール)が開催される。

